国際化学肥料ニュース（2011 年 3 月）

肥料業界の 2011 年 3 月動態

＊　3 月 27 日、日本化学会、アメリカ化学会、イギリスロイヤル化学会、ドイツ化学会、中国化学会の 5 カ国化学会が共同開催された GCS フォーラムでは、「化学が世界経済の持続的発展に果たす役割」という報告を発表し、りん酸肥料について、下記の警告と提案を発した。

1. りん酸系肥料の生産量はすでに最盛期に達し、現有技術では採掘可能な燐鉱石資源が 30～100 年後に枯渇し、りん酸肥料の減少が食糧生産に大きな影響を及ぼす。世界的な食糧危機は 2050 年、世界人口が 90 億人になる時点で現れる可能性が高い。
2. この数年間、りん酸肥料の需要量が急増することにより、DAP 価格が倍以上に上昇した。発展途上国の農家がりん酸肥料の施用を控える動きが見られた。
3. 一方、土壌中のりん酸欠乏現象がオーストラリアとアフリカのサハラ南側の地域に広がり、すでに食糧生産に悪影響を与えている。
4. 燐鉱石の資源は中国、モロッコ、アメリカに偏在し、燐鉱石に代わる自然資源がまだ見つかっていない。
5. 化学者が燐鉱石以外に燐を含有する物質を有効利用できるように技術開発を進めることにより、燐の需要を満たすべきである。

＊　パキスタン新聞の報道によれば、パキスタン大統領が国家の歳入不足を解決するため、3 件の増税法令を発した。

1. 化学肥料、農薬、トラクター等の農業機械に対して、17%売上税を徴収する。
2. 2011 年度（2010 年 7 月～2011 年 6 月）の残り期間に所得に対して 15%所得税付加税を徴収する。
3. 消費税のほかに徴収する特別消費税を 1.5%上げて 2.5%とする。

　これらの増税措置により、今年 6 月末までに約 530 億パキスタンルビー（約 6.2 億ドル）の税収が増加する。

＊　インド政府は 2010 年インドの農産物生産量が大幅増えたことを受け、2011 年にさらに食糧を増産する計画を立てた。これにより、国内の化学肥料需要量が増加し、輸入肥料の数量が高水準に保つ可能性が高い。インド政府の予測では、2011 年度（2011 年 4 月～2012 年 3 月）尿素輸入量が 650～700 万トン、DAP 輸入量 750～800 万トン、塩化加里 650 万トン。

　また、3 月 9 日にインド政府が 4 月 1 日施行の肥料補助金の一部を変更すると発表した。輸入 DAP については、325 ドル/トンから 370 ドルに引上げる。なお、インド政府が 2011～2012 年度の国家予算に国産尿素に 29.5 億ドル、輸入尿素に 15.4 億ドル等計 111 億ド

ルの化学肥料補助金を計上した。

＊　今年 1 月末から尿素の国際市場価格が下がり続けている。その原因の一つはインドの尿素入札にイランが低い値段で応札したことと考えられる。最新情報によれば、バルト海にある商社は 4 月積の尿素に FOB295 ドル/トンを提示したようである。もし、正確であれば、2010 年 9 月以来の最安値となる。

一方、DAP 等のりん酸肥料の国際市場価格が上昇し続けている。これは、市場旺盛な需要に対して、主要な輸出国としてチュニジアー等の中東政局が不安定で、生産に支障が出た影響である。

3 月末現在、チュニジアーのりん酸、DAP 生産が依然止まったままで、モロッコも重過石生産ラインの 1 本を停止した。これにより、3 月末現在、DAP の価格が昨年 9 月より約 20%上昇した。

＊　アメリカ肥料協会の統計データでは、2 月末現在、アメリカの DAP 在庫量が 1 月より 15.3 万トン増の 60 万トン、MAP 在庫量が 1 月より 8000 トン減の 33.7 万トン。なお、入手した情報によれば、3 月末の DAP 輸出価格が FOB615～618 ドル/トンであった。

＊　ブラジルが今年 1～2 月の肥料輸入量を公表した。尿素輸入量 49.3 万トン、DAP9.9 万トン、MAP17.1 万トン、硫安 38.4 万トン、塩化加里 98.7 万トンの計 274 万トン、昨年同期より 68.3%増加した。なお、同時期に国内肥料生産量が 136 万トンであった。

大手各社の営業業績

＊　ブラジルヴァーレ社は 2010 年の業績を公表した。該社は 2010 年に史上最高の通常利益を計上した。その中、化学肥料の売上が 18 億ドルに達し、総売上の 4%を占めている。なお、2009 年度の化学肥料売上が総売上の 1.7%しかなかった。

＊　ノルウェーの肥料会社 Yara International 社は 2010 年の業績を公表した。営業利益 153.2 億クローネ（約 28.3 億ドル）、税引き後純利益は 87.3 億クローネ（約 16.1 億ドル）

肥料プラント新規建設

＊　オーストラリア Perdaman 肥料社は西オーストラリア州にある Collie 尿素工場から生産する尿素を輸送するために、オーストラリア鉄道省所属の西部鉄道ネットとクインズランド鉄道輸送との間に 20 年間計 35 億ドルの輸送契約を締結したと発表した。西部鉄道ネットとクインズランド鉄道輸送は Collie 尿素工場から Bunbury 港までの鉄道を建設し、その管理と輸送を請け負う。Collie 尿素工場は 2014 年完成、年間生産能力 200 万トン、Incitec Pivot 社が販売担当、毎日約 3000 トン尿素を Bunbury 港経由して輸出する

予定。

＊　タンサンニアーからの報道によれば、ドバイの Wentwoth 社等 4 社が組んだ国際投資財団はタンサンニアーに 100 万トンメタノールと 80 万トン尿素/年の工場を建設すると発表した。総投資額は 20 億ドル、2 年以内に建設開始、建設期間 40 ヶ月。タンサンニアー近海から採掘する天然ガスを原料とする。現在、サハラ南のアフリカ地域には南アフリカだけ尿素生産をしているが、当該工場が完成すれば、国内だけではなく、近隣諸国にも輸出して、食糧増産に役立つとのことである。

＊　トリニダード・トバゴ自治政府のエネルギー部門がトリニダード MHTL 社との間に合成アンモニアと窒素肥料工場の新設に関する契約を締結したと発表した。投資額 19 億ドル、建設期間が 44 ヶ月、原料の天然ガスは自治政府のエネルギー部門が供給する。MHTL 社はすでに合成アンモニアと尿素硝安工場を持っている。なお、トリニダード・トバゴは世界最大の合成アンモニアとメタノール輸出国である。

＊　ブラジル石油（Petrobras）はブラジル政府から Tres lagoas 市に窒素肥料工場の建設許可を取得したと発表した。当該工場は今年 4 月から建設開始、2014 年に竣工予定。生産能力はアンモニア 76.1 万トン/年、大粒尿素 120 万トン/年として、ラテンアメリカ最大の尿素工場となる。また、Petrobras 社は Espirito santo 市にアンモニアと尿素工場、Minas gerais 市にアンモニア合成工場、Sergipe 市に硫安工場の新設も計画している。

＊　ナイジェリア政府石油長官は国内化学工業の育成、経済発展を図るため、国際石油メジャーとの間に国内数ヶ所に石油化学工場と化学肥料工場を建設する覚書を合意したと発表した。これら工場の投資総額が 200 億ドル超、新規就職人数 30 万人と予定。ナイジェリアは豊富な石油を産出したが、現在では原油がほぼ全量に輸出され、ガソリン等の石油製品が輸入に依存している。

＊　ベトナム石油化学と化学肥料（PVFC）は Ca Mau 県にある尿素工場が今年末に完成し、生産開始と発表した。当該尿素工場が年間生産能力 80 万トン。また、ベトナム化学工業グループ（Vinchem）も Ninh Pinh 県にある生産能力 56 万トン/年の尿素工場も今年 12 月に生産開始と発表した。この 2 工場の完成に伴い、ベトナムの尿素が自給できる上、約 20 万トンの余裕量を発生し、周辺諸国と日本に輸出する可能性もある。なお、昨年ベトナムの尿素輸入量が 100 万トン弱。

＊　タジキスタンからの報道によれば、タジキスタン国内唯一の窒素肥料工場が 4 月 10 日生産再開する。当該工場は 2009 年に天然ガス価格や電気料金の高騰により、採算が取れ

ない状態に陥り、企業が操業を無期限に停止すると決定した。今年初め、政府が天然ガスと電気に補助金を出すと決定したため、当該工場が再開する運びとなった。

＊　ノルウェーYara International 社は所属のオランダ Sluiskil 尿素工場の拡張工事が 6 月に完成し、年間生産能力が 35 万トンに増強する。また、カタールの Qafco 工場第 5 期工事も 6 月に竣工すると発表した。カタール Qafco 工場第 5 期工事は 160 万トン合成アンモニアと 130 万トン尿素の生産設備を建設し、完成後、製品を全部輸出する予定。

その他

＊　2011 年 3 月 7 日、アメリカ国際貿易委員会（USITC）は、ロシアとウクライナ産尿素のダンピング輸出に対する再調査する（sunset review）と発表した。なお、アメリカ商務省も 2010 年 12 月 1 日に同様の再調査を発表した。

1986 年 7 月 23 日、アメリカ商務省がロシアとウクライナ産尿素に対してダンピング調査を行い、1987 年 5 月 26 日にダンピング輸出事実を認定する最終裁決を発表した。ロシアに対して 64.93%の反ダンピング関税、ウクライナに対して 90.71%の反ダンピング関税を徴収する。当該反ダンピング措置はすでに 14 年間継続している。

＊　2010 年第 4 四半期、中国は塩化加里輸出量 1 万トン、平均輸出価格 390 ドル/トン（FOB）、日本への輸出量 2470 トン。一方、塩化加里輸入量 166 万トン、平均輸入価格 347 ドル/トン（CIF）。主な輸入先はロシア（61.2 万トン、平均輸入価格 332 ドル/トン）とカナダ（39.7 万トン、平均輸入価格 357 ドル/トン）

また、2010 年第 4 四半期、中国は輸出関税の影響で、化成肥料輸出量 9000 トン、平均輸出価格 406 ドル/トン（FOB）、日本への輸出量 38 トン。一方、化成肥料輸入量 21 万トン、平均輸入価格 451 ドル/トン（CIF）。主な輸入先はノルウェー（8 万トン、平均輸入価格 377 ドル/トン）。

＊　ブラジルヴァーレ社は肥料子会社の Vale Fertilizantes SA の株式一部を IPO 方式で譲渡する報道を正式に認めた。最大 49%の株式を IPO で譲渡する用意があり、譲渡後も 51%以上の株式を所有し、引き続き支配するという。

＊　ドイツ BASF 社は 2012 年第 1 四半期までに所有の化学肥料業務を譲渡すると発表した。譲渡の内容はベルギーのアントウェルペン市にある化学肥料生産設備（硝安、硝酸りん安等の硝酸肥料、生産能力約 250 万トン/年）と BASF 社がフランスにある合弁企業 PEC-Rhin 社（硝酸アンモニア石灰肥料、硝安、アンモニアを生産）の 50%持ち株。譲渡先としてノルウェーの Yara International 社、ドイツの K+S 社、エジプトの Orascom Construction Industries（OCI）の名前が挙げられている。

＊　3 月 2 日、ウクライナの Dmitry Firtash 社（DF）が同国の同業 Azot OJSC 社を買収した。Azot の肥料工場は Cherkassy 市にあり、昨年生産量はアンモニア 90 万トン、尿素 65 万トン、硝安 85 万トン、硫安 15 万トン、尿素硝安 20 万トンであった。これにより、DF 社の尿素生産量がウクライナ尿素生産量の 60%を占めることになった。なお、輸出は NF 社に委託している。

＊　中国政府財政部と国家改革発展委員会は今年の非需要期における尿素とりん安（DAP、MAP）の課税基準価格が関税を含まないと表明した。今年 7～10 月の尿素非需要期に課税基準価格 2100 人民元/トン。6～9 月のりん安非需要期に課税基準価格 DAP3400 人民元/トン、MAP2900 人民元/トンと設定されている。輸出の際に、品物の申告価格が課税基準価格以下の場合は輸出関税 7%、課税基準価格を超えた場合は輸出関税＝（1.07 - 基準価格/輸出価格）X100%と決められている。

＊　Anglo American グループは所有のブラジル Copebras 社の株を売り急いでいる。Copebras 社は燐鉱石生産量 135 万トン/年、硫酸 120 万トン/年、りん酸 28 万トン/年、りん酸肥料 95 万トン/年の生産能力があり、昨年りん酸肥料販売量が 99.81 万トンであった。Anglo American は 2009 年 10 月にすでに Copebras 社を手放すと決定したが。希望売却価格 10 億ドルと高いため、進展がなかった。今回は銀行に売却すると目指している。

＊　3 月 25 日、チリの SQM 社はこれからの 4 年間に塩化加里、硝酸加里、ヨウ素、リチウム事業に 10～15 億ドルを投資すると発表した。2014 年に塩化加里生産量 200 万トン以上、硝酸加里 120 万トン、ヨウ素 1.4 万トンを目指す。

　また、当社が化学肥料販売子会社 Agrorama を設立し、肥料の販売と輸入を強化する。

＊　イスラエル ICL 社は 2.55 億ドルで Scotts Miracle-Gro 社の専用肥料事業を買収した。Scotts 社は世界最大の芝と園芸専用肥料会社で、日本でもそのゴルフ場専用肥料が有名である。